

東北と絆つなげたい

「えっ、東北へ!」。急遽、穴埋め要員?で6次チームに参加することになりました。体力に自信がなく、芸もダメですが、「メンバーの足を引っ張らないようやるしかない」と心して出発。

被災地は、4年を経過した今も想像以上に悲惨な状況でした。名取市閑上地区は一面の野原。あるのは、住宅の土台だけ。女川町は、電車の開通に伴い立派な駅舎が完成していましたが、街中は土地のかさ上げ工事が始まったばかり。行き交うトラックの行列に驚きました。

住民の皆さんからは「また来てくれたん」「待ってたよ」と温かい出迎えを受け、保育所では、子どもたちの輝く笑顔に囲まれて私たちも元気に。復興住宅では、自治会が発足、イベントが活発に行われるなど、住民の自立が進んでいることも実感できました。

東北への派遣事業は今回で終了しますが、派遣はやめても絆を絶やさぬ道はないものか…そんなことを考えつつ被災地を後にしました。

(前理事 井口久美子・福16)

私のボランティア日記

むかしあそび研究会 大澤貞男(生13期)

ボランティア活動に励んでいると、楽しく、なんとなく心が満たされるような気持ちになりますね。働いている頃、人の為になるとか、人の為になにかするなど考えてもいませんでした。それが退職後に何故か???

「再び学んで・・・」こればかりではない。入ったクラブがボランティア専門?。これでは、ボランティア街道まっしぐら?。4年前に起きた東日本大震災で「何とかしてあげたい、何か出来ないか」という気持ちだけでグループわの支援活動チームに参加しました。昔の遊びを通して、こども達の心のケアをしたいとの目標を心密にかかかけていたりして。訪問するたびに、こども達や先生は大喜び。帰る時には「また来てね」の大合唱。でも本当に心のケアに役立っているのか、不安と反省もあつたりします。

継続は力なり。震災直後から6回、やってきたので、やっと心を通じ合えるようになった気がします。機会があれば、また、元気なこども達にお目に掛かりたいものです。

新たな事業展開への取り組み

グループわ 本部の事業担当理事は、今年の春からボランティア活動の申し込みを〈わ〉の各クラブにつなぐだけでなく、理事が市内の老人福祉施設などを訪問、どのような需要があるかを探っています。また、〈わ〉のクラブの定期練習や講習会などに参加、提供できるサービスや条件など固有の事情を調査しています。

これまでに17か所の施設を訪問、7施設でサービスを提供することで合意しました。5月から8月までに12回、サービスを提供しました。9月は9回実施。現在、5か所の施設に月1回、定期訪問しています。ボランティア活動領域の拡大と、文化部会を中心とした活動機会の増大につながってきました。

具体的には6月以降、9月までに、須磨区道正台のデイサービス施設のすまいるSUMAに、大正琴プリムラ・おはなし糸車・うらしまたろう・SCハワイアンズ・木工グループに活動をお願いし、7回訪問しました。



その一つ、9月12日(土)は、うらしまたろうさんが、音頭体操・銭太鼓・面白メガネ・民踊・南京玉すだれを披露し、大変喜んで頂きました。

特に、民踊の河内おとこ節では、85歳のご婦人が飛び入り参加されるなど大変な盛り上がりでした。

続いて、9月15日(火)も木工グループさんをお願いし、モビール作りで楽しんで頂きました。

細かい作業もあり悪戦苦闘でしたが、お孫さんへのお土産が出来たと大変喜んでおられました。次はクリスマスの作品が作りたく、次の予約を頂きました。

碁や将棋などもサービス提供を強く望む声があり、これに応えてゆきます。

(広報 藤田 健一)